

新潟市・倉元邸

土地の記憶とともに 美しく歳を重ねる家

そこで営まれてきた暮らしの面影を残しながら
小さな町として生まれ変わったとある住宅地。
時を重ねたものだけが持つ魅力に引かれて
家々が集まり、コミュニティが生まれる。
倉元さん夫妻も、そんな町に引かれて
この地に居を構えた。
過ぎ去った歳月と、新たに刻まれる時間――。
やがてそれらは溶け合いながら
新しい物語を紡ぎ始めた。

この家族、この家
暮らしの達人
連載
16
Life style

「歳月が育んだ味わいは、お金では得られません」

長い間、マンション暮らしをしていた倉元さん夫妻。「この土地を見るまでは、家を建てることなんて全く考えていませんでした」と口をそろえる二人の「目惚れで、家づくりは始まった」。

倉元さん夫妻がその土地に出会ったのは、今から約8年前、2005年の冬だった。市街地からさほど離れていない場所にありながら、昔ながらのゆつたりとした時間が流れる集落の一角。大きな屋敷跡を整備した住宅地は、木々の緑に寄り添うように家々が立ち並び、画一的に区割りされたいわゆるニュータウンとは趣を異にしていた。

土地を所有していたのは、東京で建築家として活躍する玉井一匡さん。ご実家のあった土地を分譲するにあたり、ご自身が育った地の面影を残しながら、そこで営々と育まれてきた時間を壊してしまわない町づくりを望んだ。

敷地内にあった20本ほどの柿の木や、樹齢200年を超える高野槇といった木々を残しながら、緑の間を縫うように道路を通した町は「かきの木通り」と名付けられた。敷地の北側には明治時代に築かれた煉瓦塀が残され、枕木を敷いた歩行者用の小道を草花が彩る。そんな町の一角にご夫婦が求めたのは、煉瓦塀が最もよく見える北端の区画だった。

「柿の木も煉瓦塀も、私たち夫婦には非常に魅力的でした。長い歳月が育んだ味わいは、お金で得られるものではありません」。

ません。地主さんが残したかった歴史を、私たちも大切にしながらここで暮らしていきたい、と思ったんです（ご夫婦）。

現地を訪れた翌週には「家づくりを決意していた」というご夫婦。新居での暮らしが始まったのは、土地と出会ってから約1年後、2006年の晩秋だった。



吹き抜け上部のフリースペース。建具で仕切って個室にもできるため、客間としても使える。



木々の緑をまとった外観が町並みを彩り、美しい景観を創る。写真左に見える煉瓦敷きの小道から庭に繋がる。



キッチンの壁際にはオープンな棚を設けて、見せる収納に。無造作に置かれた調理器具もインテリアの一部になっている。

左頁・右上／ロフト感覚の書斎には、勾配天井に合わせて本棚を造り付けた。
左上／煉瓦塀の一部は鋼材で補強されたゲートになっている。向こう側に見えるのは、家と家の間に通された住民共用の遊歩道。
右下／煉瓦敷きの小道を通して敷地裏手の庭へ。ご夫婦が少しずつ増やした下草の中に、「かきの木通り」の名前の由来にもなった柿の木が並ぶ。
左下／玄関ホールからLDKを望む。大きな引き戸を開けるとホールとLDKの一体感が増し、視線は窓の向こうの庭に抜ける。



大きく傾斜した勾配天井と2階までの一体感が印象的なLDK。「リビングのソファに座って窓の外を眺める時間が好きですね。柿の木の葉色の変化で、季節の移り変わりを身近に感じられます」(ご主人)。

流れゆく歳月の中で
過去から現在、そして未来へ。

煉瓦塀に沿って7本の柿の木が並ぶ。秋に収穫した実は、焼酎で酴(さわ)したり、干し柿にするのだとか。

小さな森のような庭で 季節の移り変わりを知る

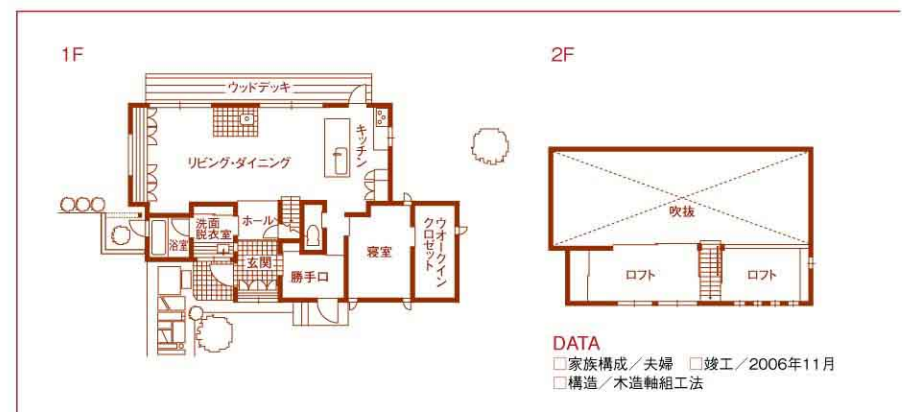
倉元さん夫妻が望んだのは、煉瓦塀と柿の木を眺めながらの暮らし。塀に向かって北向きに開いたLDKからは、どこに居ても褐色の煉瓦塀と柿の木が視界に入る。一方で採光を確保するため南側の上部に窓を設け、吹き抜けからLDK全体に光が降り注ぐよう設計された。2階にはロフト感覚の書斎とフリースペース、その他には1階に寝室があるだけのシンブルな間取り。設計は玉井さんと、町づくりを担当した高田建築事務所(本社長岡市)の共同設計で進められた。

「設計者の提案してくれたプランと私たちが思い描いたライフスタイルが一致していたのは幸福でした」(ご夫婦)。

竣工から7年が過ぎ、レッドチェリーの床は美しい飴色に。少しずつ手を入れてきた庭は、木々の根元を多種多様な下草が覆い、今では小さな森のよう。

「春夏秋冬による景色の違いだけでなく、一日の中でも時間帯によって庭は色んな表情を見せてくれます。虫や鳥の声を楽しめるのも、庭があるおかげ。ここに暮らしていた方々が残してくれたものを、私たちも未来に伝えていけるように、受け継いでいきたいですね」(ご夫婦)。

その土地の歴史に敬意を払いながら、新たに積み重ねられていく歳月。並行するいくつかの時間軸は途切れることなく重なり合って、住まいも町も、ますます味わいを深めていく。



募集中「暮らしの達人」に登場していただけるご家族を募集しています。自薦・他薦は問いません。
ハウジングこまち編集部(☎025-280-1010 平日9:30~18:00)までご連絡ください。



暖房は床暖房と薪ストーブの併用。1階から2階まで一続きの空間を、ストーブの暖気がじんわりと暖める。